

在シアトル日本国総領事館 インターンシップを終えて

福原 知可
University of Washington

2020年7月上旬から9月上旬までの2ヶ月間、在シアトル日本国総領事館でインターンシップをさせていただきました。新型コロナウイルスの影響によりリモートでのインターンシップとなりましたが、総領事館職員の方の心遣いやこまめなコミュニケーションによりとても有意義で学びの多い2ヶ月となりました。過去の職務経験や大学の座学で学んだことを実際の業務に活かしつつも、所属する経済・文化広報班の業務を通して毎日のように新しい知識やスキル学ぶことが楽しく、一つ一つの業務やプロジェクトをこなす度により責任感ややりがいを感じることができました。総領事館でインターンシップをしていなければ持つことのなかった考え方や視点を得られたことに感謝しています。また、領事館の役割の重要性を日々の業務を通して実感することが出来ました。

総領事館の任務の一つとして、海外における日本人の援助、保護というものがあります。その一環として、インターン中はほぼ毎週コロナ禍で影響を受ける日系企業や日本食レストラン関係の皆様に対して、主に州政府が発表する経済再開の方針やコロナ関連の有益な情報を日本語にまとめ、ニュースレターとして配信するお手伝いをしました。どのような情報が日系企業やレストランの皆様が必要とされているのか、どのような情報を知っていなければならないのか等の観点から、州政府機関が発信する情報の中から重要だと思うものを選出した上で、適確に日本語で情報を伝えるという業務をさせていただきました。インターン生として、このような形で直接的にワシントン州の日本企業やレストラン関係の皆様のために情報提供の援助が出来たことを光栄に思います。

ワシントン州の日系企業を援助するという行いの一環で、上記の業務の他にも州政府から出されたフェーズ毎の飲食店再開における必要条件の仮訳や総領事館ホームページの「[経済再開情報](#)」、[「中小企業・NPO・労働者への支援策一覧」](#)の更新なども行いました。インターンシップの総仕上げとして行ったプロジェクトとして、当館が管轄するワシントン州とモンタナ州での、「日本産食材サポーター認定制度」の働きかけの準備も行いました。これは農林水産省が2016年に開始した制度で、良質で安全な日本の食材とお酒等を海外で多くの人々に伝える取り組みです。年々高まる世界の日本食ブームは、日本産の質の良さを海外の方々にも知ってもらいたい機会だと思います。今後、日本産食材や日本食文化を発信するローカルサポーター店が増え、日本産のファンをもっと増やすことで日本の経済成長にも繋がります。更には、このようなプロジェクトに携わらせていた

だいたことで、広報文化外交の価値を再認識することが出来ました。このプロジェクトを進めるにあたって総領事館としては他にどのような支援ができるのかを考え、上記で述べたコロナ関連の経済再開情報や支援策一覧の更新を同時に進行して参りました。これらの業務は、単なる総領事館の多岐にわたる活動の一環ではなく、実際に現地の日系企業や日本人の皆さまの生活を守る上で重要な任務であると思います。このような状況でのインターンシップはとてもやり甲斐を感じることができました。

その他にも、ワシントン州における再生可能エネルギーや農業、他州との経済指標比較に関する資料をまとめる機会がありました。リサーチで得た情報のアウトプットなど、今後役に立つスキルをたくさん教えていただきました。今月末からワシントン大学の4年生として残りの1年間で、専攻する国際政治経済学と政治学をしっかりと勉強し、来年卒業後にはこのインターンシップで培った知識やスキルを存分に活かして日本に限らず国際社会でどんな分野においても積極的に挑戦します。短い期間ではありましたが、総領事館の職員の皆さまありがとうございました。